



医療福祉・在宅看取りの地域創造会議 通信 第48号

(H29/6/29)



平素は、「医療福祉・在宅看取りの地域創造会議」へのご理解・ご協力ありがとうございます。

スーパーには夏野菜がたくさん並んでいますね。子供のころは目にした記憶のないズッキーニも夏野菜ですね。「きゅうり」に似た見た目なのに「かぼちゃ」の仲間だそうですが、食感は「ナス」に似ている気がするので、私はナス料理の代用としても使っています。今年は観葉植物のような見た目のアイスプラントもよく見かけます。これからもどんどん新顔の野菜が増えていくのでしょうかね。



第56回ワーキング会議(6/22)

滋賀県庁 3F 中会議室



初参加 14名を含む 50名で行いました。

〈参加職種：医師・研修医・看護師・保健師・薬剤師・理学療法士・栄養士・ケアマネジャー・介護者の会・行政など〉



発表を聞いての感想、印象に残ったキーワード、これから自分たちにできること

- ・身近なところに子どもの貧困があるのだと初めて知った。
- ・子ども食堂の中身を知らなかった。給食が唯一の栄養のある食事という子がいるということに驚いた。
- ・経済的な貧困家庭もいるが、親が頑張れなくて料理を作ってもらえていない子ども、母親が病気になって手料理を食べられない子ども(心の貧困)など様々。
- ・SOSが発信されないと家庭のこまりごとに周りが気付きにくい。
- ・「おたがいさま」の中から始まったことで滋賀県内に食堂が広まった。
- ・子供を真ん中に置くこと。求心力がある。
- ・みんなと食べる楽しさを知ってもらえる居場所。
- ・ボランティアの方が子供たちを怒らずしっかり信頼関係を作っている。
「この大人なら信用できる」関係づくり。
- ・食事だけでなく 宿題(書道)などをする場所。大人も特技を生かせる。
- ・高齢者サロンなどで開催されれば、高齢の方とも関わられる。
- ・大人は介護予防・生きがい・繋がり活動になり、子どもは将来のボランティア活動へもつながるのでは。
- ・学校現場では先生の負担が以前より増えている。地域、親がしていたことが今は先生に求められている。いずれは主催者側ではない何らかの形で先生たちも参加できるようになればいい。
- ・子どものSOSも大人のSOSにも気付いて、ちょっとしたおせっかいができる地域。地域包括ケアというと大きさに聞こえるが、ひとり一人の小さな一歩から。

「ふくし」はふだんのくらしのしあわせ



今回は県こども青少年局・健康寿命推進課から多数参加され賑わいました。困りごとを抱えた子どもや親たちに自分なら何ができるのか? と考える機会をもらった 貴重な時間になりました。



次第

- ☆18:30~ あいさつ
- 18:35~ 自己紹介
- 18:45~ テーマ

「(仮) 子ども食堂の取組からみえてきたこと」

話題提供者：滋賀の縁創造実践センター 所長
滋賀県社会福祉協議会事務局次長

谷口 郁美氏

次回のワーキンググループ会議

平成29年7月27日(木) 18:30-
セミナー&カルチャーセンター臨湖 (長浜市)

第3会議室

●テーマ

「(仮) 認知症高齢者等の支援活動のための警察と地域包括支援センターの連携取り組みについて」

話題提供者 長浜警察署・長浜市

H29年度 総会

8月27日(日) PM

ピアザ淡海 大会議室

◎研修会

「(仮) これからの包括的支援を展望する

～滋賀における『我が事・丸ごと』

の地域共生「社会の実現に向けて～」

同志社大学 准教授 永田祐氏

(最新の国の動向もお伝えいただける予定です)

滋賀の医療福祉を守り育てる県民フォーラム

平成29年11月12日(日) PM

G-NET しが(近江八幡市)

金子稚子さん(終活ジャーナリスト)

(仮) 死ぬことと、生きることは同じ

～夫・金子哲雄(流通ジャーナリスト)

の闘病と死に併走して～

医療福祉・在宅看取りの地域創造会議運営事務局

(滋賀県庁 医療福祉推進課内)

貝沼・橋本

TEL077-528-3529

FAX:077-528-4851

E-mail:info@chiikisouzoukaigi-shiga.jp